

## ◆teku-teku共同企画2016★石田先生の計画地区2／立川企画（活動記録＋評価結果）◆

企 画■石田頼房先生の計画地区を歩く（その2）－住民納得案の今・立川南口区画整理－  
（TMU都市と住宅を考える会・第146回研究会との共同企画）

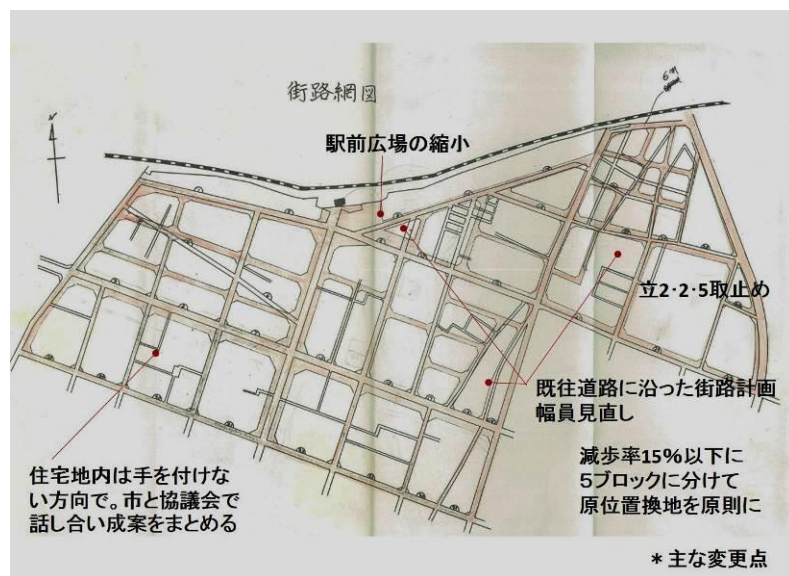
日 時■2016年5月15日（日）13:00～16:00

コース■立川駅南口デッキ＜集合＞～グランデュオ＋サザン（駅ビル・再開発一体事業）～ウインズ立川～  
錦第二公園～立川まんがぱーく（旧市役所）～多摩モノレール立川南駅～柴崎町～立川駅北口デッキ  
～ファーレ立川～多摩モノレール立川北駅＜解散＞

参加者■◎志岐祐一、井手幸人、上野朋子、大竹 亮、大谷昌夫、大塚英史、小川美由紀、荻原勝己、  
加藤仁美、栗原 徹、小林正樹、重永真理子、清水俊哉、鈴木丞治、高橋 謙、戸辺文博、  
藤井祥子、藤井正男、古里 実、村松紀明、谷貝 等、横田宜明、吉田雅一、○若林康彦、他2名  
（以上26名、敬称略、◎コーディネーター、○旧市役所地区解説）

### 企画主旨■

今年度の研究会では、昨秋他界された石田頼房先生（東京都立大学名誉教授）が計画に関わられた地区を探り上げ、現地を歩いて計画意図を理解するとともに、その後の状況を踏査検証しています。その2では、石田先生が都立大助教授時代に関わられた立川駅南口地区を探り上げ、大規模開発された北口地区とあわせて歩きます。立川駅南口は1964年に都市計画決定をしたものの、区画整理事業は権利者の同意が得られずに停滞。8年後の1972年、革新市長の下に立川南口都市改造計画調査委員会が組織され、石田先生は委員として住民が納得できる計画案の作成（見直し）に関わります。当時の資料によると現在の街の骨格はここで決まったことがわかります。事業は紆余曲折あって完了するのはさらに40年後の2013年。時間というファクターが大きく影響をしたその姿に、私たちは何を感じるのでしょうか。比較として北口駅前やファーレ立川など立川基地跡地利用の街も歩きます。



▲事業計画を丁寧に見直し、住民納得案に作り直す

### ＜参加者の意見・評価＞

（注）評価は、A:非常に良い B:良い C:普通 D:良くない の4段階。

コメントは、評価の理由、感じたこと、考えたことなど。

#### 1◆立川の街の全体（今回歩いた区域）について

評価:3.18 内訳:AABBBBBBBBC--

評価A●そこかしこに、街の賑わいを作り出す仕掛けが試みられていて好感が持てた。

評価A●今まで駅を降りたことがありませんでした。色々揃っている良い街ですね。

評価B●多摩の中心として南北それぞれ個性を出し、魅力ある商業集積地となるようよく考えられていると思う。「人」を中心に、歩いて楽しめる街とするには大きすぎる。

評価B●ほど良いインフラとほど良い界隈感が混在しており、郊外拠点としてのバランスの良い街。

評価B●立川は利便性が高く、大規模店舗も充実しており、非常に賑わっているのだが、何かが足りない気がする。街の歴史や個性、奥の深さがあまり感じられないためかもしれない。

- 評価B●対照的な南口と北口であり、大型店が多く立地している北口に多くの人が集まっているように見受けられた。まちの魅力としては南口にあるのかもしれない。
- 評価B●大規模開発で集客力のある北口と、ヒューマンスケールの南口との対比、その計画上の由来がよくわかりました。印象が薄かった南口の味わいを知り、今後に期待したいと思いました。
- 評価B●様々な問題認識・計画と、様々な立場と意見の衝突と、様々な改造・改善・整備の積み重ねから、今日の市街地が形成されてきていることを（ほんの少々垣間見た程度ですが）知りました。石田先生を始め行政、関係権利者・住民など多くの人々の苦心の上に今日があることを窺い知りました。
- 評価B●出来不出来はあるけれど、随所に行政や計画者の格闘の跡が感じられる。
- 評価B●まさに、少年雑誌に昔載っていた「近未来都市」そのものの景観です。モノレールが効いています。
- 評価一●駅の南側と北側を一緒にして一つの評価をするのは、ちょっと無理があるように思います。
- 評価一●一度歩いた程度では評価しづらい街でした。街の持つパワーは大きいですね。

## 2◆立川駅南口の都市改造区画整理・再開発等について

評価:3.00 内訳:AAABBBBBBCCC

- 評価A●現実性とまちの個性を継承することを両立させた計画が秀逸。石田先生のまちづくりへの愛着が強く感じられる成果だと思います。
- 評価A●過大な道路計画にならず、駅舎一体の再開発も近道として機能しているなど、（一見普通の街に見えるが）ヒューマンな街の雰囲気は保たれている。
- 評価A●計画を柔軟に見直すとは良い決断ですね。
- 評価B●南口一帯は区画整理を見直した結果、画一的にならず、生活感があってよいと思う。
- 評価B●地域の現状に合わせた計画であると思う。必要にして十分な街路が整備され、その中で時代とともにまちが変容してきている。
- 評価B●昔ながらの道を上手く利用しながら、駅へのアクセスを考えていると感じました。駅前ロータリーは、車には少し厳しいと思われます
- 評価B●駅舎と一体型の再開発について、地元権利者床の配置が地上1階2階の路地上に配置されていることを見て事業調整の苦労が伺える。
- 評価B●試行錯誤の積み重ねの上に、現在の姿（ターミナル駅周辺市街地としては平凡と感じられるが）があることを知りました。平凡の中の「ささやかな改善」の積み重ねによるよりましな平凡こそ貴重な財産だと思いました。
- 評価C●商業ゾーンは雑然としたイメージで、街の空間やビルに入っているテナントなどに、あまり魅力が感じられない。
- 評価C●経緯を知るとなるほどと思うところはあるが、駅前広場、バスの処理、駅前の共同ビルなど事業の後期に行われた駅前周辺は良いとは感じない。石田先生の計画時にはなかった要素ではあるが、特にモノレール駅がメインの通りにふたをしている閉塞感や、駅改札から続くデッキと地上レベルに広がる街とのギャップを強く感じる。
- 評価C●確かに、反対されていた区画整理計画を破棄して住民の納得した区画整理を行ったのであろうが、出来上がった街並みはデザインコントロールされているようには伺えず、まあ、地方都市のどこにでもある駅周辺区画整理だなという印象です。ただし、以前のようなギャンブルの街といった怖い印象は無くなり、安心して歩ける街になったことは評価します。



駅ビルと一体整備された南口再開発ビル



1階部分に歩道が提供されたJRA前の区画街路



### 3◆立川市役所跡地周辺の公共施設ゾーン整備について

評価:3.92 内訳:AAAAAABBBBBBC

- 評価A●低層の既存庁舎にデッキ状の建築物を増築することでイメージが一新しており、広場との関係も良くなっている。また、跡地全体の計画をすぐに決めないのも良かったと思う。
- 評価A●芝生と樹木のある広場と低層の元市役所庁舎がゆったりとした空間を創っていて心地よい。市庁舎はもともと市民が近付きやすいデザインだったと思われ、リニューアル工事も美しいと思う。まんがぱ〜くは子供がゆっくり自由に過ごせる「居場所」となっているように見受けられた。施設の運営方法、市民のニーズ・モラル、建物空間のスケール感、の3つがちょうどよく組み合わせられたのだと思う。
- 評価A●緩い?使い方が面白かったです。駅からそこそこの距離があるにも関わらず人を惹きつけている（テラスに人の賑わい）ということは、市民からプラスに評価されている場所ということでしょうか。
- 評価A●市役所跡地を、市役所の既存建物の減築整備で暫定的にまんがぱ〜くとして利用しているのはとても良いと思った。また、都市計画として定めているわけではないが、ガイドラインとして公開空地を道路に面して連続して定めており、それを一般的な民間や病院が尊重しているのは優れていると思った。
- 評価A●跡地利用を急がず、最適解を時間をかけて選択しようとする考え方に思えました。立川まんがぱ〜くのリノベと公園空間とのつながりを果たす共用空間の増築は、優れた計画と思います。
- 評価A●既存施設をうまく活用しながら、後付のテラスがすごく有効的に利便性を高めています。比較的金をかけていないにもかかわらず高い効果を生んでいる好事例です。
- 評価A●減築・改修型のモデルになるような事例。
- 評価B●民有地でなかったため地価が顕在化する形で土地利用がなされなかったことが、全体としてオープンスペースに富んだ豊かな空間を実現したと思います。立川駅周辺の市民にとっては幸せなことです。
- 評価B●既存の公共施設をうまく活用している。広場との関係、デッキの設け方などが非常に上手い。
- 評価B●建物が密集している南口の中で、緑の多い空間ができていて良いと思う。
- 評価B●引き算による建築で気持ち良い空間が生まれている。
- 評価C●立川市ほど人口が多い都市なら、もう少し利用されている方が望ましいと思います。



旧立川市役所を再整備した広場と公共施設



旧市庁舎を減築してデッキを設けた「まんがぱ〜く」

### 4◆立川駅北口一帯の再開発とファーレ立川について

評価:3.77 内訳:AAAAABBBBBBBB

- 評価A●あれだけの人が集うということは、それ相当の魅力があるということであろう。実際、昭和記念公園やモノレール下の緑地帯、おしゃれな店舗施設、多くの行政機関など、自然と商業・業務両方が高い次元で整っていると思う。ただし、一つ一つの施設が巨大だという印象はぬぐえず、施設の中は面白いのだろうけど、街としての魅力はさすがに吉祥寺よりは劣ると思った。
- 評価A●高島屋に至るビルの間を縫う歩行者デッキが、立体的なネットワークを際立たせている。ファーレのアート計画は今でも維持管理が適切で、広場や歩行者動で市民に愛着をもたれており、まちの構成を豊かにしている。
- 評価A●市役所跡地地区とは違った形で、オープンスペース豊かな市街地を形成しており、心地よい空間と感じました。以前にも見た覚えのある、アフリカどこかの土人(?)群像(いま作ったら物議を醸しそう)や直接触れることのできるアートは、ガウディの「グエル公園」に通じるところもあって愉快です。モノレールから見下ろすと、また違った面白さがわかります。
- 評価A●市民による自主的なアート作品のメンテナンスグループがある(と伺った)ということは、このエリアも市民から人気を集めている場所ということでしょうか。

評価A●何もない地域に良く造ってきたと思います。

評価B●長い時間をかけて大型商業施設が出店している。駅前には多くの人が集まり賑やかな空間になっている。

評価B●パブリックアートを今も支える地元組織、既存の建物にも絡みながら駅から延びるペDESTリアンデッキなど、うまくつながっていると思う。

評価B●ペDESTリアンデッキが路地的に使われ、自然に人々を駅前から誘導しています。建物の配置にも工夫が見られます。

評価B●デッキをつなぐ街区の整備がたくさんの人の流れをつくっている点を評価したい。

評価B●駅から伊勢丹を通り抜け、ファーレ立川に至るデッキの動線が、変化に富んでいてなかなか面白いが、一般の市街地を素通りしてしまうというマイナス面もある。

評価B●路地のようなデッキのネットワークやファーレのアート群など面白い計画だが、既存の駅前通りと新規開発との関係が上手くいっていない（既存百貨店が衰退するなど）ように思える。

評価B●モノレール下の緑の空間が市民の憩える場所となっているのが良い。ファーレの混雑、密度感と対比的。モノレールが見えるのもよい。



北口からビルの間をぬうように続く歩行者デッキ



北口の大規模開発地区・ファーレ立川

#### 5◆今回歩いた場所のうち、特に印象に残ったところ

立川駅南口再開発★地元地権者床が圧迫されている感じが、しぶとく1～2階を確保し、沿道型商店街の雰囲気を残している。管理コストも身の丈に合ったものになっているように思われる。

立川駅南口再開発★ツギハギの再開発ビルは異なった主体の建築物を苦労して一体化している。（本来の3階を1階としているグランディオの）階数の呼称が傑作。

立川駅南口再開発★駅ビルと地権者共同ビルの一体化という非常にユニークな試み。よくぞ実現したもの！

立川駅南口再開発★こういう作り方をすると面白いですね。

立川駅南口再開発★JRと民地の土地建物一体的再開発がモデル的。

立川駅南口再開発★複合ぶり。

南口駅ビル・グランディオ★吹き抜けやエスカレーター、特徴があり面白いですね。

南口駅前広場・デッキ★区画整理らしからぬ？適度な大きさ。

南口デッキに追加されたエスカレーター★なんの化粧もないステンレス板でくるまれ、事情を知らない人には特になんとも感じられないだろうが、広場の拡張の経過をうかがうとその存在が輝いて見える。

南口商店街の1階セットバック★地味だし、うまく使いこなしていないところはあるが

南口商店街の1階セットバック★任意ながら、統一的にセットバックしようとした意識の高さ

南口JRA前の区間道路★2棟の間の道路に面して1階がセットバックし、ヒューマンな雰囲気となっている。

市役所跡地の立川まんがぱ～く★減築・再整備で開放感ある公共空間になっている。

市役所跡地の立川まんがぱ～く★『こんな場所がウチの近所にもあったらなあ！』

市役所跡地公共ゾーン★他の自治体への優れた参考事例になると思います

市役所跡地公共ゾーン★引き算による心地よい空間。

柴崎中央公園★入れない公園とは！

南口の3つの公園★街に有効でない。東公園は地区の端で高低差のある幹線道路に面してどんづまり感がある。

中央公園は主要街路から1本裏で存在さえ認識されていない。西公園は浮浪者問題からほぼフェンスで覆われていて使い方が限定的。吉祥寺中道通りの途中にあったどこからでも入ることができる原っぱのよう



な公園とは位置、形状、使い方など雲泥の差。地域特性の違いといえばそれまでだが、せっかく減歩までして作ったのにというのに残念。

**多摩モノレール★**「歩いた」場所ではないのですが、散会后、往復を乗車してみて、立川の立地・位置のポテンシャルをあらためて認識しました。（多摩センターが近いのですね。モノレールはのろいのですが。）

**北口のデッキ★**ファールレに至るデッキがビルの谷間を迷路のように抜けているのが面白い（立体路地）。

**北口の伊勢丹★**駅に面してインパクトあるファサード。

**ファールレ立川のアート★**20年を経てもなお立川アートは健在です。

**ファールレ立川のアート★**できた当時は違和感があったが（それが狙い？）、今では不思議と街になじんでいる。

**ファールレ立川のアート★**直接手で触れることのできるアートがくつろいだ空気を醸し出して気持ちいい。

**ファールレ立川のアート★**できてから20年以上経っているが、修復再生してピカピカに。

**北口の駅前大通り★**中武デパートなどかつての立川のメインストリートがさびれつつあるようで淋しい。



任意ながら共同でセットバックした商店街



現在も親しまれているファールレ立川のアート群

## 6 ■立川駅南口の都市改造について、変更計画案に込められた計画理念（※個性ある商店街の形成、回遊性のある歩行者空間の充実、広場とバスターミナルの整備など）は上手く実現していると思いますか？

●個性ある商店街→猥雑なものも含めた界索性、回遊性のある歩行者空間はある程度実現していると思います。一方で、広場とバスターミナルは最小限に抑え、車のルートも一方通行を利用して解くという計画は実現しているのですが、無理を感じます。

●40年以上の時の流れがあるが、駅前の交通広場を過大にせず、バス等の車の流れを処理することは実現され、今も継続している点で、成功していると思う。

●バスは、駅に直結していることが望ましく、あえて大きなバスターミナルをつくらず鉄道駅との利便性を確保しているのが良い。

●バスターミナルが巨大にならず、一方通行の活用などによりヒューマンスケールを感じるが、回遊性には、緑の配置や建物側への仕掛けが必要だったと思う。

●一見、普通の街に見えるが、インフラのスケールが適切で、区画整理でありながら、まちの界隈感が残された良い事例を思います。

●過去と現在が良く調和し、味がある駅前として実現していると感じます。

●商店街については、賑わってはいるものの、個性的とは思いませんでした。どこにでもあるチェーン店の立地が目立ちます。歩行者空間の回遊性については、回遊のしやすさ、その快適性という点から見て、平均点レベルとしか言えません。バスターミナルとそれへのアクセス道路については、十分とは言えませんが、ここに至るまでの経緯をうかがうと、ここまでの整備で精一杯、及第点というべきでしょうか。

●基盤整備である土地区画整理事業としての評価は、よくわかりません。やはり、そこに立ち上がった個々の建物や用途がどのような関係性を持っているかが決め手だと思います。その観点からは、まあ、普通の街かなと思いました。仮に、基盤が当初の計画案通りにできあがったとしても、受ける街の印象は現在と同じようなものではないでしょうか。そう考えると、地元の皆さんが合意できた「決めすぎない」この変更計画案は良かったのかなと思います。

●時間の経過、商店街のあり方、車の使い方、人の働き方等が大きく変わったことにより、計画理念の実現は道半ばとなってしまった部分があると感じました。計画変更を行った後も識者（先生等）が関わり続けられる仕組みがあればと思いました。

- それほど実現しているとは思えない。ハードの計画は、まちづくりの理念と住民合意の両立を図り、駅と街が近い歩行者主体のヒューマンな街区形成を試みてかなりの程度成功しているが、拠点形成・商業振興などソフトの活動がそれについて行っていないので、街の魅力形成に至っていないのではないかと。
- 計画理念が実現しているかどうかは、今回見ただけではよくわからないが、南口が計画的に他の街より優れているとは思えない。
- 多摩地区の中心として、立川駅周辺はエリア全体の要です。その観点から考えると、南口は少しローカル感が強く、地元民の要望を受け入れた結果だと思われます。

## 7 ■立川駅南口の再開発事業(駅ビルと地権者による組合再開発の合築・一体整備)についてどう考えますか？

※その発想、できた空間、地権者・利用者にとっての良否など

- 商業施設は、駅と一体となった方がアクセスも良く使い勝手も良い。利用者にとっても地権者にとっても良い結果ではなかったかと思う。
- 事業主体の垣根を越えたという点で、画期的な再開発と思います。1、2階の地権者店舗と2階以上のテナント構成も、地べた部分とデッキで雰囲気を作り分けている？点で、興味深い。
- 駅ビルと再開発ビルの合築により、間に広場を介さずに駅と街が一体化している。空間処理には苦心の跡がうかがえるが、今も近道に使われているようで、成功ではないか。
- 地権者ビルの入り口が「駅への近道」となっており、大きく示されていたのが良かったです。
- ユニークな取り組みで面白いと思います。
- 改札口へのショートカット通路とその存在のアピールは、苦心の作として評価できます。全体としてツギハギという印象がぬぐえませんが、この事業についても完成に至るまでの関係者の苦心・努力を想像して、(あれこれケチはつけられますが) 及第点、即二重の花マル、でしょうか。
- 地権者床が1、2階の路地空間的な整備になっており、空間のグレード格差はあるものの維持管理コストや路面店としての商いの継続性の観点から納得感がある。
- 一つの建物でありながら、あれだけグランデュオ(上層階)とサザン(1、2階)の造りと雰囲気が違うのは本当に面白かった。
- 駅ビルのために広い平面がほしいJRと、小規模ながら駅前に路面店を作りたい地権者の思惑が合致した面白い例だと思う。ただデザイン的には中途半端にチープな感じで、年を経ても昭和レトロと呼ばれる通り抜け商店街のような味わいが生まれそうにないのが残念。また事業の長期化による結果だと思いますが、地権者の自営店が少ないのも魅力半減の一因だと思います。
- 合築・一体整備の発想は良いと思うが、相互のつながり(共存という関係、お互いに相手がいることでのメリット)が乏しいのが残念。
- 区画整理と再開発の一体施行事業とJR駅ビルとの合築という極めてハードルが高い事業であり、当時としてはこの計画が唯一の解だったのだろうが、今となっては地権者部分を分けずに全体を一体利用した方が良かったと思う。

## 8 ■石田先生の言われる「住民納得案を作り直した」計画変更(道路計画の縮小、住宅地の現状維持、減歩率の抑制等)についてどう思いますか？

- 計画内容を向上させたこと(広場・街路の縮小による駅と街の一体化、既存道路の活用によるヒューマンスケール化など)と、住民の合意形成を促進したこと(減歩率の減少、実質的領域の縮小)を両立している。
- 住民が受け入れられる現実的な計画となった計画変更により、計画実現が大きく進んだと思いました。当初計画のまま押し進めていたら現在でも計画線があるのみという状況が発生したのではないのでしょうか。
- 幹線道路・準幹線道路などを従前の宅地割に沿ったものとして、営業・生活への影響を極力少なくし、住民合意を得られるべく腐心された様子がよく分かります。もって瞑すべし、でしょうか。
- 背伸びをせず、南口の身の丈に合った計画ではなかったかと思われる。今となっては北口は大規模開発が進み、南口は北口とは別の魅力を持った地域として再評価されるのではないかと。
- 現道を活かす等の見直しの視点は、現在では事業費削減の観点からも一般的なものになっているが、高度成長期当時の取り組みとしては、画期的なものであったと思う。
- あの時代としては中途半端なインフラ整備を推進するには、よほど強い理念とビジョンがあったのだと思います。事業手法や画一的基準に振り回されない、強い意志を感じました。
- 実現性を良く考慮されたと思います。

- 計画当時はその理念は全く正しかったと思いますが、多摩ニュータウンを始め周辺エリアがこんなにも発展することは予想がつかなかったのではないのでしょうか
- 当初計画を見ると住民納得案は必要だったし、それで計画も進展があった。ただどうしても必要な部分、駅前広場とそこに至る道路は解けなかったのでしょう。その後の条件変化（モノレール等）もあり、住民を交えた検討は行われたようですが、整備までずいぶんと長い時間がかかり、結果として良い形になっていない印象です。住民の意見を検討してある程度計画に反映した場合、住民もそれを受け入れる姿勢が必要だと思います。
- 都市改造そのものが「悪者」ではない＝住民・生活者の視点から見ても、駅前周辺には、解決しなければならない課題があつて、なんらかの都市改造が必要である。政治的なせめぎあいの中で、従前の都市構造を否定せず、問題解決できる「都市改造」の方法を示し、住民や政治団体の理解を得ていった。住民運動が「絶対反対」型から脱却していくひとつの道筋をつけたものと理解。
- 住民の合意がなくては事業ができないので、住民が納得できる計画に作り直すことは当然だが、事業ができてそれほど良い街にはなったとは思えない。当初計画によって住民との信頼関係が崩れたため、合意形成が難しくなり、事業を実現することで精一杯の状況になったのではないか。



既往道路を残した計画で街の雰囲気伝える



歩車共存道路でヒューマンな界隈性を醸し出す

## 9 ■立川の街の魅力を伸ばしていくには、今後の課題をどう捉えて、それを解決するためにどうしたらいいと思いますか？

- 立川は交通利便性が高く、高島屋、伊勢丹、駅ビルなどの商業機能も充実しているが、街の歴史や個性があまり感じられないのが課題。街の歴史や個性は一朝一夕にはできないが、ファーレ立川のアートを修復再生したような市民の地味な活動の継続が必要だと思う。
- ファーレ立川や多摩モノレールの存在などは個性的で印象が深いですが、その他の市街地は、頑張ってここまで作り上げてきたとはいふものの、どうもどこかで見たようなありきたり、平均的なまちに見えてしまう。「これが立川だ」と言える、感じられるような個性的なものがこれから各部分に増えてくると、魅力的になると思う。
- 南口については、北口にあったマニア・オタク向けのコアな店舗があった第一デパートの解体とフロム中武の改修でテナントとして戻れないケースにより、それらが南口の雑居ビルに分散したので、個性のある商店街の特徴の一つになる予感があります。あとは旧市役所周辺では施設の再整備が進むので、そこに至る道の整備でしょうか。北口は東側のアンコの部分も悩ましいですが、余地がないと息が詰まるので、当面はそのまま今後の楽しみでしょうか。
- モノレールなどの公共インフラ整備と商業集積は一定程度進んでいるので、次の課題はアートやマンガ館の取り組みをさらに進化させ、商いの中に「まちの文化」を育てていくことでないかと思う。
- モノレールが景観形成上、大きなポイントとなっていますね。
- 公共施設ゾーンはもう工夫した方が良かったと思います。
- 北口と南口それぞれの個性を明確にする。
- 北口は大型店の出店でにぎわうが、南口はJRA以外にアピールするものが見つからない。北口とは別の魅力を発信して北口に集まる人を南口に呼びこみ、賑わいを持たせることが必要ではないか。
- 北口には若者があふれ、南口は落ち着いた雰囲気、ほどよく共存した状況に思えますが、南口にももう少し人が流れてくる仕掛けが必要だと思います。
- 北口のファーレに人が集中しており、既存駅前通り（中武デパート等）の活性化が課題。南口は無理に集客を目指さず、地元の人がヒューマンな空間を活かして暮らしを楽しむようなコンセプトがいいのではないか。



## 10 ■今回の企画全般についての感想など

●立川と吉祥寺を比較すると、鉄道等の交通結節点、大規模な商業集積、公園、周辺の住宅地など、各々の要素は似ているにも関わらず、街としては吉祥寺の方がはるかに魅力的である。2つの街を連続してみることで違いが鮮明になり、非常に面白かった。

●吉祥寺に続いて立川を見たことで、駅への交通アクセスの整備・改善を課題の主要な動機として捉えた、面的再整備のあり方を比較しつつ考えることができた。私の住む東急東横線は満足な駅前交通広場を持たない駅が多く、いずこもアクロバットのようなバス・タクシー・マイカーの運行で日々を凌いでいる。今回の企画は、鉄道事業者と行政と利用者市民＝歩行者・商業者とがどのように関わって「交通の連携の改善・快適化」を含む市街地の改善をしていけばよいのかを考え直す良い契機となった。

●吉祥寺はともかく、立川については現地を見る研究会として成立するか心配でしたが、色々な関係者も参加して、それぞれの視点で考える会になったと企画側としては一安心です。いまだにかかわりを持った人がいる現在進行形の街を、歴史を通してみる面白さを感じることができました。

●立川は、北口の大規模開発、最近では「IKEYA」や「ららぽ〜と」の出店が話題となっており、南口の存在感がなかった。南口をこれだけ歩いたのははじめてで立川をはじめて理解することができた。

●以前に来たら南口はそこらじゅう道路工事中でした。見直し後の区画整理事業だったのでしょう。石田先生の見直し案の跡を実際に訪ね、その意図と効果、そしてまちづくりの難しさを実感できました。

●今まで降りたことが無く大変貴重な経験でした。勉強になりました。ありがとうございました。

●立川駅周辺を初めて歩き、良い勉強になりました。企画、当日の解説など、お疲れさまでした。今回も充実のまちあるきでした。

●50年の立川南口区画整理事業の歴史の中で、石田先生のスケッチをもとに、現在の立川の街を体感する企画は、大変刺激的で面白かったです。それにしても、立川がこんなに元気な街だとは知りませんでした。企画、コーディネート、ご説明いただいた皆さんに感謝です。

●既存のまちの界限性を損なわない区画整理の結果に思いをめぐらせるのは、非常に楽しい経験でしたし、超マニアックな企画だったと思います。企画のご案内、ありがとうございました。

<コーディネーターより>

吉祥寺と並べると立川はかなり分が悪い。石田先生も、大学院生の時にブロックの中の建築まで計画できた吉祥寺に比べ、停滞していた事業推進の切り札として革新市長に呼ばれ、減歩の数字をにらみながら既存道路をトレースし住民の意見を反映した案を作成するという立川南口の計画には、いろいろとご苦労があったと思われます。計画と現状の街のギャップに既視感を覚えた方も多かったのでは。一方、参加の皆さんの鋭い眼によって、1階をセットバックした街区や貫入する歩行者専用の路地など、計画の片鱗も見つけることができました。どこまで先生が直接かわられたかは定かではありませんが、住民納得案を経て、住民が参加して生まれた形なのかもしれません。長引く計画により、計画区域に隣接する市役所は既に移転して街は新しい段階に入っているのですが、当日はそこに至る街路整備や、後背地の公益施設の再編計画などにかかわっている先生の教え子である会員の発表なども行われました。連歌のように続くまちづくり、先生がお話されていた歴史尺度で都市を見るということを感じた1日でした。

(志岐祐一)



立川駅北口／ファーレ立川にて（背景は「見知らぬ者たち」）

<付 録>

東京都立大学で石田先生の都市計画概説を受講した1978年当時のノートには、次のように記されています。

立川駅南口区画整理

- ・8年間のデッドロック → 住民納得案をつくりなおした
- ・地域住民、諸官庁、審議会とのネゴシエーション、生々しい
- ・時間はかかるし、研究者のやるべきことでもないかもしれないが、面白い